



1月6日～8日の2泊3日で、1年生対象に行われた全学部合同の「スキー授業」※希望者のみ。(富良野スキー場にて)

2012年度新学期を迎えるに当たって

学長 新川 詔夫



進級おめでとう。新2年次生は今から本格的に種々の専門科目が開講されるから、身を引き締めて勉学に励む必要がある。専門科目では、その専門領域に特化した数多くの学術専門用語を学習するが、まずこれに慣れなければならない。専門用語はただ暗記するだけでなく、その定義をしっかりと身につける。ここでつまずくとキャッチアップに時間を要することになる。専門用語は専門領域の理解には欠くべからざるものである。2年次は上級学年に比べると比較的時間的・心理的に余裕があるので、この時期に身体と心を鍛えることが望ましい。また、自分の目指しているものが違うと感じ、万が一進路を変更しようとするのであればこの時期までであろう。

新3年次生は専門科目の中でもより深化・細分化された科目を学習する。この年次はほぼ一生を決める時期だと思われる。クラブ活動でも上級生としての貫禄がつく頃である。多くの3年次学生は今年中に成年に達するであろうから、社会の一員としての責任を自覚する年代である。

新4年次生は学部によってはそろそろ卒業を意識し、

資格・国家試験の準備や将来の就職先などを本気で選択する学年である。不景気な昨今だが、就職に関して本学教職員も全力をあげて応援・支援する決意である。あまり大きな理想を追い求めず、なお且つ、安易に妥協せず、一生の仕事場を探求していただきたい。国家試験や資格試験は数人の友人たちとグループで勉強するのも効果があるであろう。

6年制の薬学部・歯学部における新5年次生はCBTを前学年までに終え、各専門領域の臨床分野を学び、さらに臨床実習が始まる。実習では見学ではなく積極的に実際の技術・スキルを習得して欲しい。新6年次生はいよいよ卒業と国家試験を目前とした最終段階である。両学部ともその特殊性と長く学んできたことから、いわゆる「つづしが効かない」状況であり、6年次生は人生における最大力ですべてに当たって欲しい。

新学期は自分自身をリセットするよい機会である。学業のみならずクラブ活動・ボランティア・趣味などを含めて、昨年度にやり残した事、足りなかったことなどをぜひ新年度には解決するよう望む次第である。

CONTENTS

2012年度	1
新学期を迎えるに当たって	
教員役職者・新任教員紹介	2
定年退職される先生からのメッセージ	
2012年度入試結果速報	4
札幌開成高校特別講義	
札幌北高校・札幌南高校インターンシップ	
歯科医療最前線	5
同窓会活動状況	6
私の学生時代	8
OB訪問【歯学部歯学科】	9
授業レポート	10
STUDENTS' ACTIVITIES & EVENTS	11
TOPICS	12
○北海道医療大学アメリカンフットボール部 創部30周年記念式典	
○被災地医療救護活動にあたった 本学歯学部教員等に対する感謝状の贈呈	
○本学学生による 当別町の除雪ボランティア	
EDITOR'S NOTE	

教員役職者・新任教員紹介

新規選出教員役職者

平成24年1月1日付

歯学部附属歯科衛生士専門学校教務主任

長田 真美

新任教員

平成24年1月1日付



准教授

鈴木 英樹 (すずき ひでき)

PROFILE

弘前大学医療技術短期大学部理学療法学科、佛教大学社会学部社会福祉学科卒業。北星学園大学大学院文学研究科修士課程修了。北海道大学医学部附属病院理学療法部文部技官、札幌市保健福祉局技術職員、北のくらしと地域ケア研究所代表等を経て、本学就任。社会福祉学修士。

平成24年1月1日付

薬学部 助教(生命物理学)

岡田 知晃

歯学部 助教(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療))

日高 竜宏

Message

定年退職される先生からのメッセージ



薬学部 教授
関川 彬

1979年11月に本学薬学部の助教授に赴任してから32年半が過ぎました。本学の教員の定年が65歳であるので、これまでの人生の半分を本学で過ごしたことになります。薬学部の三期生が最高学年で、彼らも今五十代半ばで、あと数年で定年を迎えることになると思えば不思議な気持ちになります。

当時は大学の前に駅はなく、ほとんどの学生は当別駅から数台のスクールバスで大学に通っていました。新設の大学であったため、知名度、偏差値ともに低く、事務職員と教員が組んで、高校の進路指導の教員に大学の宣伝に向いたのも懐かしい思い出です。国家試験合格のため、勉強に真剣に取り組む学生の姿に感動したのも新しい体験でした。

教授になってからは、講義や実習の他に病院実習、大学院の臨地実習、教務、国試対策、就職などの担当も行いました。特に病院実習や臨地実習は全国に先駆けて実施したため、4年制の4週間実習は他地域の薬学部の実習の参考になったとされています。現場の薬剤師が親身に学生の指導を行っていたとき、「薬学部の学生は地域の薬剤師が育てる」といった北海道の土壌は6年制の長期実習に受け継がれています。

学生との出会い、教員、職員との共同教育、卒業や退職の別れ、尊敬する先生達との永遠の別れがありました。そして卒業生の子弟の教育にも携わることができました。多くの感謝をもって定年を迎えることができました。ありがとうございます。



薬学部 教授
高橋 大

1974年4月、白糠郡音別町に本学の教養部が開設され、化学教室(主宰伊藤昌明初代教養部長)の講師として赴任して以来、38年勤めさせていただき定年を迎えることとなりました。長きにわたり大過なく過ごすことができましたことは、多くの教職員の皆様からのご指導ご鞭撻のおかげと、心より感謝申し上げます。

音別の頃は、私と同僚の先生方も若く共によく語り合い(飲み会)をしました。また、学生とはクラブ活動(卓球部、スキー部)などで、共に汗を流したことなどを懐かしく思い出されます。恩師の故伊藤教授は、津軽ヒバの精油成分の一種であるツヨブセンの研究をされており、このツヨブセンとの出会いが、私のその後の主たる研究テーマとなりました。

歯学部の開設の後、教養部が当別に移転し、さらに、専門学校および新学部の開設など、本学が大きくなるにつれ、公私ともいっそう多忙になり、時経つ速度が増した感がありました。また、教養部が、基礎教育部を経て改組分属となり、薬学部人間基礎科学教室所属となってからは、薬学部6年制など学部や学生の動向など大きく変化しつづけています。この変化の速度に徐々に遅れている自分がおりましたが、柱を見失ってはならないと自戒しておりました。

最後になりましたが、いま一度、教職員の皆様、同窓生および学生の皆様のおかげでこの時を迎えることができました。深く御礼申し上げますとともに本学のますますの御発展をお祈り申し上げます。



歯学部 教授
和泉 博之

2003年2月に本学に赴任して以来、充実した期間を過ごさせていただき、皆様のご支援によるものと心より感謝申し上げます。

東北大学薬学部大学院から始まった研究生活も40数年の年月が流れ、光陰矢の如しです。振り返ってみると、好きなことを一所懸命やってきた生活でした。若い時に、趣味は「研究」と「テニス」といったのが、今となっては真実のような気がします。朝早くから夜遅くまで、頭の中は「良い仕事をしたい」という思いでいっぱいでした。趣味だから、苦しい研究も喜びになり、最後まで自分の発想に基づいた研究をやることのできたのではないかと思います。そのまとめとして本学歯学雑誌(30巻2号)に「生理学からみたヒト」というタイトルで総説を書くことができました。古来、

研究者の仕事はほとんどが趣味の世界なのではないかと思われれます。学問とはそれを究める事で発展してきたのではないのでしょうか。趣味としては、研究は最高のもので決して飽きることも退屈することもなく、無限の努力をする甲斐があるものです。一方では趣味とはいえ、安易に流れず、その結果をよく見据えていなければ、全くの物笑いでおわる可能性もあることも心しておかなければならない厳しさもあります。

“大人”になるとは他人に割く時間が多くなることといいますが、退職後は少し“大人”になって後輩、同輩、家族のために時間を割いていきたいと思っています。最後になりましたが、今後の本学の益々の発展を祈念致します。



心理科学部 教授
高橋 憲男

1994年4月、立ち上げて間もない看護福祉学部の臨床心理専攻に、三宅和夫教授と故・岩本隆茂教授に基礎と臨床の両領域が分かる人間として誘われ、教授として赴任した。

札幌医科大学、北海道工業大学に続く3度目の職場であった。いずれも文系の人間としては異質の領域であり、慣れるのに時間がかかった。しかし、幅が広がり強くもしてくれた。看護福祉学部の立ち上げは毎日が藪の中を進んでいく感じであった。専攻の教員全員で車を連ねて、実習先開拓のため、渡島コロニーまで行ったのは今にして思えば懐かしい。

学年進行で大学院修士課程、博士課程の立ち上げにも参加した。D○号教授資格は、今にして思えば、よく認めてくれたと思う。できて間もない臨床心理士養成の第2種指定大学院になったのもこの頃であった。

看護福祉学研究科の博士課程の完成後直ちに、心理科学部と心理科学研究科の立ち上げを行った。この作業は、当別の

学部学生、大学院生の教務進行と教室の改修、あいの里の教務進行と教室改修、教員の当別とあいの里との移動などが並行して行われ、毎日が薄氷を踏む思いであった。GPの採択と事後評価結果Aは快挙だった。

ゼミは自主自立の精神でしたが、よくついてくれました。研究職に向かった人、ベンチャーに就職した人、臨床の専門職に就いた人、様々な人と出会いました。あいあい祭りでホタテ焼の店を出したり、心理科学部の前に雪像が作られたり、最も多い時で1ヶ月に1度のコンパをしたり、楽しい時を過ごさせてもらったことに感謝します。

18年間、いくつかの役職、大学設置審議会とのやり取り、大学基準協会の主査等、高等教育評価機構の評価員、GPの事後評価員などの経験を通して、大学と大学院の問題を広く学ばせて頂いたことにお礼し、支えてくださった学内外の方々に感謝いたします。



心理科学部 教授
土肥 聡明

2002年4月に、あいの里に心理科学部が新設されると同時に赴任して、この3月末で丁度10年になります。この心理科学部が在学生にとっても、大学受験を目指す受験生にとっても、魅力的な学部として受け入れられることを目標にし、そのために他の教員の方々と協力しながらの毎日でしたが、気がつけば10年、そして定年という年齢になっていました。今年送り出す卒業生はまだ6期生ではありますが、この10年間、講義、実験、実習、ゼミ等を通しての学生との関わりや様々な出来事を通して、認識を新たにしたこと、学んだことも多かったと感じています。その意味で、これまで一緒に学生の教育に関わってきた先生方、大学職員の方々と、そして、私の授業、ゼミに食いついてきた学生さんに感謝し

たいと思っています。

今回、私を含めて、4人の教員が定年退職となり、心理科学部は世代交代ということになります。心理科学部にとっては、成熟した学部として世間から安定した評価を得、社会における存在感を定着させることが、次の10年の課題かなと思います。しかし、世の中の流れの大きな変化(経済状況、受験生の減少傾向等々)の中で、次の10年はなかなか厳しい時代になりそうという感じがあります。この心理科学部が、次世代の教員のもとに、さらなる発展をとげることを願い、その様子をこれからも見守っていきたいと思っています。



心理科学部 講師
石川 美子

1991年4月、あいの里に札幌医療福祉専門学校言語聴覚療法学科が開設されて10年、2002年に北海道医療大学心理科学部言語聴覚療法学科に移行してから10年と、20年間にわたる多くの皆様からのご指導・ご支援に深く感謝いたします。教職員そして学生の皆様の支えにより、東日本学園の日々を豊かに過ごすことができましたこと、心よりありがたく思っております。

学科は言語聴覚士養成の北の拠点として、卒業生たちを稚内から沖縄まで全国へと送りだしています。1997年に言語聴覚士法案が成立し、国家資格が法制化されました。言語聴覚士はコメディカル専門職として認められ、身分の保障や職務内容の

多様化とともに、卒業生たちの活躍の場は広がって行きました。

さきの東日本大震災で被災した宮古、陸前高田、石巻、仙台、そして福島の卒業生たちは、ひたすら前に進んでいます。医療チームの一員として、前例のない状況にとまどいながら、支援を必要とする人々とともにあゆんでいます。

言語聴覚士養成教育の現状については、様々な課題が残っており、今後も改定が必要になっています。次の時代を背負っていく若い方々が、言語聴覚士の自立に向けて、根気よく取り組んでくださることをお願いいたします。



心理科学部 講師
山路 めぐみ

21年と半年くらい前の7月始めころでしたが、「専門学校を作るので一緒に仕事をしませんか」とのお話をいただき、中島公園横のパークホテルのロビーで、当時の土産田事務局長さんと田多法人本部長さんにお会いしました。少し遅れて、もう一人の方が現れました。その方が第2代学長の安倍三史先生でした。面接だと思っていたら、「よろしく願いますよ。」とお話で、あまり時間もとらずに帰られたのですが、その時「朝、学生さんに『おはよう』と言ってくださいね」と、おっしゃったのです。開校後間もなくの頃、安倍先生が学校にいらした時、私に「え～、みどりさん」と、まちがった名前呼びかけて下さり、名前も覚えようとしておられることがわかりましたので、それ以来、学生さんにはま

ず挨拶、それから名前を覚えることをモットーにしてきました。エレベーターの中などでは、「授業はもう終わりましたか」などと話しかけるようにもしていました。そのような21年間の教員生活で、「名前」は覚えても忘れてしまうことが多く、何回も思い出す練習をして、学生さんには迷惑をかけてしまいましたが、「おはようございます」と「さようなら」は、どの先生よりもたくさん言えたと思います。街では学生さんに声をかけないようにしていましたが、他の学科の卒業生に「先生、卒業生です」と声をかけられたこともあり、うれしい思い出になっています。学生さんのふみ台になれたかなと思っております。

北海道医療大学

一般前期入試の志願者数は増加。

本年度は1月30日・31日の2日間の日程で、札幌をはじめ、東北から関東、関西、九州までの全国13会場で一般前期入試を実施しました。本年度の志願者数は、昨年度より29名増え、1,828名でした。

センター前期入試は募集回数が2回。

センター前期Aは3教科型、センター前期Bは2教科型入試です。大学独自の試験は行わず大学入試センター試験の得点のみで合否判定を行うほか、それぞれの日程に出願できるので、両方に出願した場合は合格のチャンスが2回に増えることになります。本年度の志願者数は、昨年度より94名増え、1,258名でした。

編入学2期に9名の志願。

11月に行われた1期試験に続いて、1月30日に看護福祉学部と心理科学部の3年次、1月31日に薬学部3年次、歯学部2年次の編入学試験を札幌、東京、大阪の3会場で実施しました。全体で9名の志願がありました。

歯学部附属歯科衛生士専門学校

実質競争倍率は1.0倍。

1月31日に、一般前期(B日程)入試を実施しました。志願者数は1名で、1名が合格、実質競争倍率は1.0倍という結果となっています。

■2012年度 一般・センター前期入試結果

※()内は前年度実績

学部・学科名	入試形態	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
薬学部 ●薬学科	一般	1/30	193(204)	186(195)	126(127)	2.6(2.5)
	前期入試	1/31	157(138)	142(124)		
	センター 前期入試	A	15(15)	173(200)	53(52)	3.3(3.8)
	B	10(10)	109(102)	41(38)	2.7(2.7)	
歯学部 ●歯学科	一般	1/30	33(27)	30(25)	39(28)	1.3(1.5)
	前期入試	1/31	22(21)	20(16)		
	センター 前期入試	A	5(6)	89(48)	81(46)	1.1(1.0)
	B	3(4)	42(38)	36(38)	1.2(1.0)	
看護福祉学部 ●看護学科	一般	1/30	399(406)	392(402)	92(92)	7.6(8.0)
	前期入試	1/31	314(350)	305(333)		
	センター 前期入試	A	8(6)	212(203)	40(41)	5.3(5.0)
	B	6(4)	114(117)	29(25)	3.9(4.7)	
●臨床福祉学科	一般	1/30	121(103)	120(102)	126(110)	1.7(1.7)
	前期入試	1/31	93(92)	91(86)		
	センター 前期入試	A	6(6)	74(66)	63(66)	1.2(1.0)
	B	4(4)	68(57)	67(56)	1.0(1.0)	
心理科学部 ●臨床心理学科	一般	1/30	143(132)	142(131)	107(103)	2.4(2.3)
	前期入試	1/31	116(111)	112(103)		
	センター 前期入試	A	8(6)	111(95)	55(57)	2.0(1.7)
	B	7(4)	95(94)	49(44)	1.9(2.1)	
●言語聴覚療法学科	一般	1/30	128(113)	127(112)	77(76)	3.0(2.8)
	前期入試	1/31	109(102)	106(99)		
	センター 前期入試	A	6(6)	97(77)	40(37)	2.4(2.1)
	B	4(4)	74(67)	47(50)	1.6(1.3)	
合計	一般	1/30	1,017(985)	997(967)	567(536)	3.1(3.2)
	前期入試	1/31	195(201)	811(814)	776(761)	
	センター 前期入試	A	48(45)	756(689)	332(299)	2.3(2.3)
	B	34(30)	502(475)	269(251)	1.9(1.9)	

■2012年度 編入学試験(2期)結果

※()内は前年度実績

学部・学科名	入試形態	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
薬学部 ●薬学科	社会人		1(1)	1(1)	0(0)	—(—)
	一般	3(3)	2(4)	2(4)	2(1)	1.0(4.0)
歯学部 ●歯学科	一般	若干名(若干名)	2(1)	2(1)	2(1)	1.0(1.0)
	社会人		0(1)	0(1)	0(1)	—(1.0)
看護福祉学部 ●看護学科	一般	2(3)	2(0)	2(0)	1(0)	2.0(—)
	社会人		0(1)	0(1)	0(1)	—(1.0)
	一般	3(3)	0(0)	0(0)	0(0)	—(—)
●臨床福祉学科	指定校		0(0)	0(0)	0(0)	—(—)
	社会人		0(0)	0(0)	0(0)	—(—)
	一般	若干名(若干名)	1(1)	1(1)	0(0)	—(—)
心理科学部 ●臨床心理学科	社会人		1(3)	1(3)	1(2)	1.0(1.5)
	一般	3(3)	0(3)	0(3)	0(1)	—(3.0)
●言語聴覚療法学科	社会人		1(3)	1(3)	1(2)	1.0(1.5)
	一般	3(3)	0(3)	0(3)	0(1)	—(3.0)
合計		—(—)	9(15)	9(15)	6(7)	1.5(2.1)

■2012年度 一般前期(B日程)入試結果

※()内は前年度実績

学科名	入試形態	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
歯科衛生科	一般前期入試(B)	5(5)	1(2)	1(2)	1(2)	1.0(1.0)

札幌開成高校特別講義

「ブレ先端科学特論」の実施について

1月10日(火)と11日(水)の2日間にわたり、札幌開成高校コスモサイエンス学科1年生35名を対象に、特別講義「ブレ先端科学特論」を実施しました。テーマは「自分の遺伝子を解析してみよう」。初日は本学個性健康科学研究所太田亨准教授による遺伝子の基礎についての講義と、自分の細胞からDNAを抽出し、耳垢型、毛髪型を解析する実験を実施。2日目は長崎大学病院精神



科の黒滝直弘准教授による講義「統合失調症の遺伝について」、また新川昭夫学長による講義「耳垢遺伝子の発見とアジア人の民族移動」の後、初日の実験結果の確認とグループ発表・全体討議を行いました。

遺伝子解析実験や最先端の講義など、大学ならではの授業を体験し、有意義な時間を過ごしたようでした。

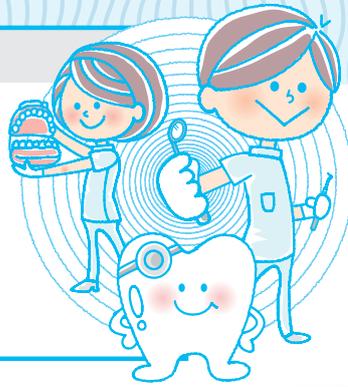
札幌北高校・札幌南高校
インターンシップの体験

1月10日(火)に札幌北高校が、1月11日(水)には札幌南高校がインターンシップで本学と大学病院を訪れました。札幌北高校は計12名が来訪。薬剤師と臨床心理士グループに分かれ、大学病院で職場体験を実施しました。札幌南高校は、4名が薬剤師体験を実施。模擬講義や調剤体験、また病院薬局の見学を行いました。本学でのさまざまな業務体験を通じて、医療への関心がより深まったようでした。

歯科医療 最前線

vol.5

〔 歯と全身との関わり 編 〕



歯周病を治せば、メタボも良くなる!?

口は健康の入り口、 元気の土台。

よく耳にする「メタボ」、メタボリックシンドロームは肥満、高血糖、高血圧などの危険因子が重なった状態で、脳卒中や糖尿病を発症する確率をぐんと高めます。予防の基本はバランスの取れた適切な食生活ですが、それを入り口で支える歯の健康も欠かせません。自分の歯でしっかり噛んで、ゆっくり食事をするのが肥満の予防につながることも明らかになっています。

いくつになっても自分の歯で食事をするためには、毎日の歯磨き、バランスのよい食生活に加え、予防医学の観点からも歯科医師のアドバイスや定期健診が欠かせません。また、子どもの頃からの健康づくりにおいて、「食べ方」を育てる視点で食育を支えていくことも今後ますます歯科医師の大切な役割になっていくでしょう。

歯周病と糖尿病に 深い関係が!?

口の中の状態は全身の健康とも深くつながっています。生活習慣病の一つ、歯周病は歯の周囲を支えている組織が壊れていく病気で、程度の違いはありますが、成人の8割がかかっているといわれます。近年、この歯周病と糖尿病の関連性が解明されてきました。糖尿病の人は同時に歯周病にもかかっている率が高く、残っている歯の数も少ないことがわかっています。しかも、歯周病が進むとインスリンの機能が抑制されること、歯を失うことであまり噛まなくて済む食品に偏りがちなことで、ますます血糖値を上げるという悪循環をもたらす危険があります。

糖尿病の人の歯周病を治療すると血糖コントロールが改善したという報告もあり、ここには双方向の関連性があるのでは

ないかと注目されています。そこで、医師も協力して予防・治療の向上を図ろうと、日本糖尿病協会では歯科医師登録医制度をスタートさせました。現在6000人以上の歯科医師が登録しています。

歯の健康が
全身の健康にも
関わり合ってるんだね



TOPICS

歯周病と糖尿病の関連究明を 遺伝子レベルで進めています。

歯周治療学分野の古市研究チームでは、本学の辻大病院長(糖尿病専門医)らと共同で歯周病と糖尿病の関連を遺伝子レベルで明らかにする研究に取り組んでいます。これまで歯周病あるいは糖尿病に関わる遺伝子の研究は別々に行われ、それぞれにいくつか候補が挙がっています。私たちはそれらを突き合わせ、両疾患共通の遺伝子を見つけようとしています。すでに歯周病と糖尿病の両方にかかっている患者さんの協力で100人以上のサンプル(血液)を採取、これから解析を始めます。ぜひ両疾患共通の遺伝子を見つけて、患者数の多い2疾患の同時治療に貢献したいと考えています。



歯学部
古市 保志 教授

日本歯周病学会専門医・指導医、歯学博士。本学附属歯科内科クリニック院長。「歯周外科手術におけるバイオ・リジェネレーション法」実践者でもあり、再生医療、ゲノム解析から歯周病に挑む歯周治療学分野のトップランナー。



ゲノムワイドというゲノム全域にわたって解析し、絞り込んでいく手法を採用しています。

薬学部



薬学部
同窓会会長

田中 稔泰

薬学部同窓会は1979年に発足し、活動を行っているところですが、2006年からスタートした薬学部6年制が、今年で完成年度となり、初めての卒業生を迎えることになります。今後新しい卒業生と各地域での卒業生の交流が今まで以上に深まって行くことを期待している次第です。

各地域における同窓会活動としては、昨年、関西支部が設立されたので全国16支部(道内6、道外10支部)で活動を行うこととなりました。各支部では、毎年、医療薬学セミナーと同時に総会や懇親会を開催し、その地域での薬業、医療に関する情報交換を行っております。また、毎年開催される日本薬剤師会学術大会開催地においては、例年その地域の支部が当番幹事となり、懇親会を開催しております。同窓会の活動はこのような会員同士の交

〈創立年:1979年 会員数:4,700名〉

流を深めながら、それぞれの仕事やモチベーションを高めることを一つの目標としておりますので、全国の同窓生が一緒に参画できるよう支部役員の協力を得ながら活性化を図り、行ってまいりたいと考えております。また、近年、私立薬学部の新設が相次いだことから、全国の私立薬学部において入学者の定員割れを起こしている大学もあり、今後厳しい状況が到来する可能性があるかと認識しております。我々同窓会としても、この点において大学に寄与できるように努力してまいりたいと考えております。

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~phalumni/>

歯学部



歯学部
同窓会会長

榎輪 隆宏

「学部の発展と会員の親睦」を目的に設立された本会も早いもので再来年30周年を迎えます。この間、大過なく同窓会活動を行えたのはひとえに会員はじめ多くの皆様のご理解とご尽力によるものと厚くお礼申し上げます。

昨年は我が国にとりまして大変な年でした。千年に一度あるかないかという自然災害の発生とそれに伴う原発事故。また国の借金もとうとう1千兆円の大台に乗り、将来に対する国民の不安は募るばかりです。しかしこの不安材料は残念ながら我々にはコントロールできません。大切なことはコントロールできることとできないことを区分して、コントロールできることにフォーカスを当て全力で改革を進めることです。現在の環境の急激な変化には過去の考え方、やり方はもう通用しないかもしれません。“在り方”、つまり本質を見つめ直し、持っ

〈創立年:1984年 会員数:約2,800名〉

ている資源の分析をし独自の強みを生かしていく、そういう意味では今、すべての行程、つまり考え方から仕組みそして日々の実践まで“整理整頓”する良い時期なのではと考えます。

本会が30年後、独自の価値を見出しさらに成長している姿を願い、現在「志」を共にする仲間と“整理整頓”している最中です。今後、目的の達成を果たすべく頑張りますのでどうぞ宜しくお願いします。

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~d-alumni/dousokai-honbu@clock.ocn.ne.jp>
事務局 札幌市中央区宮ヶ丘1-1-21
TEL 011-621-7403 FAX 050-3355-6837

看護福祉学部／看護学科・札幌医療福祉専門学校／看護学科



看護学部
同窓会会長

川村 武昭

福慧会(看護学科同窓会)は1997年に発足して、今年度で15年目を迎えました。ひとえに卒業生の皆さまを始め、大学並びに関係団体の皆さまの日頃からのご協力のお陰であることに感謝しております。

主な活動内容としては、臨床福祉学科と協働で取り組んでいる看護福祉学部同窓会セミナー及び看護福祉学部学会の企画及び運営を主軸に、4学部及び歯科衛生士専門学校とともに協働で開催している同窓会連絡協議会や同窓会コラボ☆講演会があります。また、これらの活動状況や各地で活躍する同窓生の近況報告等を卒業生の皆さんにお伝えするものとして会報誌の発行やホームページの運営、同窓生同士の繋がりを保つものとして同窓会名簿の発行を三年毎に行っています。そして、同窓会活動の方向性について話し合う場として役員会を開催しており、活動の幅は年々広がっています。

昨年は東日本大震災のために日本中が大きな被災を受けました。学校や多くの先生から沢山のバックアップを受けながら「仲間が被災したかもしれない」と東北3県と関東周辺の同窓生はもちろんのこと、日本中に散らばる同窓

〈創立年:1997年 会員数:約2,000名〉

生に同窓会名簿を片手に1件ずつ安否確認の電話掛けやメールを送り続け、フェイスブックを活用した呼びかけを行ったのも多くの同窓生でした。日本各地で日々奮闘している同窓生の皆さんの横の繋がりをしっかりと保つための活動を続けていくこと、そして、このような災害が起きた時の命綱になれるように、これからも各期幹事はじめ役員一同で同窓会活動を盛り立てていきたいと考えております。ホームページと会報誌をとおして同窓会活動を随時お伝えしておりますので、是非皆さまからのご意見ご要望をお待ちしております。

これからも常に足下を見直していきながら、同窓生同士の交流と学校との繋がりを大切に活動を行っていきたくて考えていますので、これからもどうぞよろしくお祈りいたします。

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~kango/kango@hoku-iryu-u.ac.jp>

看護福祉学部／臨床福祉学科・札幌医療福祉専門学校／介護福祉学科



臨床福祉学科
同窓会会長

小畑 友希

東日本大震災発生からまもなく1年が過ぎようとしています。私自身も、直後の昨年3月末に岩手県沿岸の宮古市から陸前高田市へ障がいのある方たちの被災状況調査のために現地入りしました。津波の破壊力は凄まじく、火災が発生した街は瓦礫となりすっぱり消えていて、今でも残像が目には焼き付いています。そして私たちは、この震災で多くのことを学びました。

同窓会でも震災直後、安否確認作業を行いました。その際には、平時からの“つながり”を構築する必要性を改めて痛感いたしました。その後の震災調査(NHK)で、ある数値が公表されました。非常にショックな内容で、震災による犠牲者率が、障がいのある方が2.06%、市民全体が1.03%(主要被災地域28市町村)、比較すると障がい者の犠牲者率が2倍であり「障害ゆえの犠牲」が顕在化しました。札幌白石の姉妹孤立死も同じ延長線上に思えてなりません。私たちの仕事は、人と人とのつながりを作る仕事です。安心・安全な地域社

〈創立年:2000年 会員数:約2,000名〉

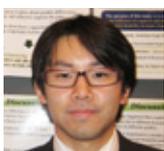
会をつくり豊かな暮らしを守る仕事です。福祉や介護の専門職として、改めて自分たちの“質の向上”を常に意識しなければならぬと再認識しました。

2011年度の同窓会活動としては、つながりの再構築への足がかりとしてHPを開設しました。今後は同窓会活動の紹介の他に、HPを起点に卒業生の輪を広げていきたいと考えています。また、福祉・介護分野の質の向上をはかる取り組みとして、卒業生を講師に国家試験対策講座を2回開催いたしました。早い時期から資格取得を意識して大学で学ぶことで、実践力のある専門家となっていただきたいと思っております。

今後も大学や他同窓会としっかりと連携を深めながら、会の発展を着実にやっていきたいと思っております。ご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

fukudo@hoku-iryu-u.ac.jp

心理科学部／臨床心理学科



臨床心理学科
同窓会会長

本谷 亮

医療大に立ち上がった臨床心理専攻が、臨床心理学科と名称を変え、当別からあいの里へとキャンパスを移し、早11年となりました。当別時代から数えると実に20年です。本同窓会は設立6年目ですが、同窓生の人数も年々増え、活動に深みが増してきています。日頃の同窓会活動へのご理解、ご支援に改めて感謝いたします。

昨年の大震災により、日本全国、大変な被害を受けました。本同窓会では、震災直後より、HPや本学と連携をとり、皆様の安否確認を行いました。甚大な被害を受けられた方は確認できませんでしたが、しかし、今回の震災では、直接的な影響のみではなく、さまざまな場面で影響がでており、心を痛められた方、大変な思いをされた方々の話は多々お聞きしました。

さて、活動では、今年度も定期総会、親睦会、同窓会セミナー、会報誌『医心

〈創立年:2006年 会員数:約500名〉

伝心』発行などを行っております。また、活動を進めていくための役員会も実施し、内容を充実させるために検討を重ねています。来年度も2つの同窓会セミナー(6月と3月に実施)が決定しているとともに、役員数を増加させ(3名増員)、運営基盤の安定を図るとともに、活動を活性化させることを目指しています。

同窓生のニーズに答えられるような取り組みを進めていくとともに、セミナー等を通して同窓生の結びつきを強めていき、同窓会活動を社会に発信していきたいと考えております。今後どうぞよろしくお祈りいたします。

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~p.dousou/shinri-dousokai@hotmail.co.jp>



言語聴覚療法学科
同窓会会長

伊藤 健

はじめに、昨年3月の東日本大震災で被災された皆様から御見舞い申し上げます。皮肉にもこの未曾有の複合的大災害から、私たちは人と人との“絆”の大切さと、当事者でなければ計り知ることができない状況の中、暴動が起こらず復興へ着実に向かっていく“日本の力強さと誇り”を教わりました。新たな年に入りましたが、現在でも被災地では生活に支障がある方々が多数いることを忘れずに“復興新年”を歩んでいきたいと考えております。

あいの里ST会(言語聴覚療法学科同窓会)は前身の札幌医療福祉専門学校言語聴覚療法学科同窓会から通算し創立18周年を迎え、約770名の同窓生が、全国各地で活躍しております。

主な同窓会活動は、役員会の実施、定例の総会開催や会報発行のほか、「言語聴覚療法学科公開講座」、北海道医療大学同窓会コラボ講演会、各

同窓会との「同窓会連絡協議会」を開催しております。また昨年は、本同窓会ホームページをリニューアルし、見やすい情報の掲示と円滑な講演会などの情報発信ができるようになりました。

今年も、さらなる同窓会ホームページの充実、ネットワーク形成など一つ一つありますが、今できることを着実に改良・修正をし、同窓会活動の活性化を図っていきたくと考えております。

これからも大学や他学部・学科同窓会との繋がりを大切に、今後さらに、言語聴覚士の“北の拠点”として運営努力を重ねていきたいと思っております。

st-kai@hoku-iryu-u.ac.jp

北海道医療大学同窓会支部連絡先

■薬学部

支部名	支部長(期)	連絡先
札幌支部	多田 正人(4)	☎011-812-2311
道北支部	伊藤 裕康(14)	☎0166-35-5201
十勝支部	中村 章(1)	☎0155-62-0611
道南支部	小林 隆宏(8)	☎0138-46-4651
釧根支部	徳田 宏司(6)	☎0154-52-5052
オホーツク支部	大谷 昌弘(4)	☎0157-67-6620
青森支部	三上 章(1)	☎017-728-3200
栃木支部	橋本 秀雄(3)	☎0282-27-2264
茨城支部	西野 郁郎(1)	☎0293-42-0239
北越支部	杉本 雅規(3)	☎0761-43-1151
神奈川支部	川田 哲(3)	☎045-742-2301
東海支部	高尾 信彦(2)	☎053-451-0821
関西支部	新井 淑子(1)	☎078-261-2231
中四国支部	勝原 聡(3)	☎082-291-2104
九州支部	山田 昌人(3)	☎0965-52-5750
沖縄支部	伊波 重宏(5)	☎098-874-1818

■歯学部

支部名	支部長(期)	連絡先
北海道支部連合会	加藤 友一(4)	かとう歯科医院 ☎0134-23-8348
青森県支部	佐藤 孝治(2)	佐藤歯科医院 ☎0172-36-0412
秋田県支部	竹内 享(7)	竹内歯科医院 ☎0182-22-2001
岩手県支部	宮川 和亮(5)	宮川歯科クリニック ☎0198-23-1070
宮城県支部	佐々木隆二(6)	ささき歯科 ☎022-383-8849
山形県支部	芳賀 俊和(5)	芳賀歯科医院 ☎0238-84-8107
福島県支部	早坂 弘(4)	早坂歯科医院 ☎0248-24-6480
茨城県支部	秦 博文(2)	秦病院 歯科 ☎0294-36-2551
栃木県支部	斎藤 真一(3)	斎藤歯科クリニック ☎0285-27-1234
群馬県支部	篠崎 広治(1)	しのざき歯科医院 ☎0276-48-0118
埼玉県支部	上野 洋(5)	上野歯科医院 ☎048-756-4499
千葉県支部	寺山 功(4)	葉山歯科医院 ☎0471-64-6480
東京都支部	石野 善男(2)	二子玉川ガーデン矯正歯科 ☎03-5491-5454

支部名	支部長(期)	連絡先
神奈川県支部	宮平 暁(5)	みやひら歯科 ☎045-590-4601
山梨県支部	古屋 修(4)	境川村立診療所歯科 ☎0552-66-2533
石川県支部	久保 伸一郎(2)	粟津歯科医院 ☎0761-44-4852
新潟県支部	布施 路子(6)	静雅堂歯科医院 ☎025-723-8840
長野県支部	小池 文一(2)	小池歯科医院 ☎026-224-1482
愛知県支部	木村 英雄(1)	こめの歯科医院 ☎052-451-1182
京都府支部	相模 宣伸(5)	サガミ歯科医院 ☎075-311-2773
大阪府支部	西 一幸(1)	西歯科医院 ☎06-6793-7500
広島県支部	山田 賢一(2)	山田歯科医院 ☎082-927-2200
四国支部	谷本 良司(3)	医療法人谷本歯科医院 ☎0883-42-2069
九州支部	清川 宗克(3)	清川歯科・口腔外科クリニック ☎092-822-8805
沖縄県支部	玉城 均(1)	ながた歯科医院 ☎098-854-1182

■看護福祉学部 ☎0133-23-1211

- 看護学科(内線3688)担当:伊藤・明野(実践基礎看護学講座)
- 臨床福祉学科(内線3708)担当:池森(医療福祉臨床学講座)

■心理科学部 ☎011-778-8931(学務部 心理科学課)

- 臨床心理学科
- 言語聴覚療法学科

歯学部附属歯科衛生士専門学校

〈創立年:1991年 正会員数:991名、特別会員:5名〉



歯科衛生士専門学校
同窓会会長

梶 美奈子

はじめに、2011年3月に発生した東日本大震災により甚大な被害に遭われた皆様からお見舞い申し上げます。皆様が一日も早く平穏な日々に戻れますよう心よりお祈りいたします。

昨年の大災害は、皮肉にも私たちに人と人との繋がりがや絆の大切さ、尊さを再認識させてくれるきっかけとなりました。震災当日に卒業式を迎えた26期生を新たに同窓会に迎えて現在の会員数は、正会員・特別会員合せて約1,000名となっております。2012年4月には、3年生(27期生)を準会員として迎え、より一層同窓会の絆を強めていく所存です。

今年も同窓会誌“いずみ”の発行、歯科衛生士セミナー、理事会、北海道医療大学同窓会コラボ☆講演会など同窓会関連の催しものを企画しております。多数の会員ならびに関係各位のご参加とご協力をお願い申し上げます。

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~katakuri/okahashi@hoku-iryu-u.ac.jp>

歯学部附属歯科衛生士専門学校同窓会支部連絡先

北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校 ☎0133-23-1211(内線3482)担当:大山・岡橋

卒業生を対象とした各セミナー・
公開講座に関するお問い合わせ先

広報・教育事業部
教育研究推進課 ☎0133-23-1129(直通) e-mail:nice@hoku-iryu-u.ac.jp

あわや!!

薬学部
薬学科

准教授 千葉 薫



病院薬剤師として30年勤めた後、5年前に本学の教員になった。今回の原稿依頼を機に、学生時代を振り返ってみた。1972年に東北薬科大学に入学し、当時はまだ本学の開学前で、道内出身の同級生が100人以上もいた。2年先輩には本学の豊田教授や教室の先輩でもある唯野教授がいらっしや、卒後30年で職場が同じになるとは思いも寄らなかった。講義ではいつも眠くなり、試験前にはノートを借りていた。学生の教室配属制はなかったが、薬剤学教室に入り浸っ



紅葉真っ盛りの長野県戸隠にて(左が私)

ていた。何かと理由を付けて酒を飲み二日酔いに何度も苦しんだ。

学生生活で今でも時々思い出すことが2つある。1つはクラブで軽音は1年で辞めたが、座禅同好会というのがあり、不思議とこれは最後まで続いた。月1回の例会に加えて松島瑞巖寺での4日間ほどの合宿が春と夏休みの2回あり、早朝の粥座(お粥の朝食)から始まり作務や座禅など雲水さんと同じ生活をした。

最初は食事の作法がわからず合宿が終わったら胃が小さくなっていた。警策の響きが身体に心地よく、得難い経験であったが、座禅の経験がその後の人生に影響を与えたことはなかった。

もう一つは、旅行中のアクシデントである。3年秋に友人の実家がある長野県に遊びに行った。スバル360で野尻湖や妙高などを巡り最後の日に戸隠神社へ行った。その杉林参道で私が5千円札を拾ってしまった。これ幸いと名物戸隠そばを堪能した(時効です)。これがいけな



座禅同好会の松島瑞巖寺での合宿にて、雲水さんと。(後列左から4番目が私)

かった。帰り道、下りの急な砂利道でつづら折りのヘアピンカーブを抜けた瞬間、大きな石にタイヤが乗り上げてハンドルが取られた。右側は絶壁で百メートル以上の谷底。何度か右に左に大きく蛇行し、何度も谷底に落ちかけ、もうだめかと思った瞬間、左側の山にぶつけて横転してやっと止まった。九死に一生を得た。もし谷底へ落ちていたら今はなかった。帰りに一切衆生救済のお寺である善光寺へお参りに行った(合掌)。

ふり返れば教室で多くのことを学び、大いに飲み、多くの友人を得ることができた楽しい学生時代であった。今でも道内の同窓会を札幌で毎年行っている。

私の学生時代

今、本学の教壇に立てられている先生たちは、学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。今回は千葉准教授と長谷川准教授のお二人に、当時の様子を語っていただきました。

諸師に導かれて

看護福祉学部
臨床福祉学科

准教授 長谷川 聡



中学の頃、自作ラジオで聴いたアンドレス・セゴビアのギターに感激した。高校の自由研究でインカ帝国の縄文字を調べて遺跡と文字に興味を持った。スペインと中南米を学ぶならばと一浪して上智大学に入学し、スペイン語と言語学を学び始めた。

音声学の講義で中野一雄教授と出会い、



学部のオリエンテーションキャンプ(一番右が私)

失語症と脳の言語機能の講義に感銘を受けた。相談したら、フランス語学科に外国語教育と聴覚言語障害リハビリテーションを研究している教授がいると言う。志を変えて大学院に進学することを決めた。スペイン語と言語学の師であるフェリス・ロボ教授に洪々の許可をいただいて、階上の研究室の扉をたたいた。それが卒後もお世話になるクロード・ロバールジュ教授だった。

大学院に進学して、私は教授の運営する聴覚言語障害研究センターに籍を置いた。教授は私が音楽・芝居・機械好きと知っていた。聴覚障害児の発話リズムの研究を勧め、必要ならどこへでも行って来いと言った。教授は心が広く、私はその言葉に甘えた。同じ言語学科にいらっしやる先の中野一雄教授に音声分析を、金田一春彦教授に日本語を、学科を超えて理工学部へ電気音響とコンピュータを、経済学



卒業公演のスペイン語劇「El cielo dentro de casa」(左が私)

科へ統計分析を、心理学科へ発達と教育を習いに通った。

大学は勉強だけではなかった。学部一年の頃はオーケストラでオーボエを吹いた。だが予算と才能と学業成績が付いていかず涙ながらに断念した。その相談にのってくれたのが顧問のアルフォンソ・デーケン教授だった。後に仕事で再会するとは思ってもよらなかった。しばらく勉強ばかりしていたら、級友とハイメ・フェルナンデス教授からスペイン語劇に誘われた。それが今の仕事に繋がるとは、これもまた予想外だった。

学び、遊び、友がで、恋もした。その話は紙幅がないので別の機会に。1975年から1982年まで、私の学生時代は多くの師と友人との出会いだっただ。永く懐かしい学生時代が、今もあの東京四谷の空の下にある。

OB訪問

歯学部 歯学科編

本学歯学部卒業生12名を含む総勢29名の組織を率い、ジャンルを超えた歯科医療を発信する臨床家であり、この春修了式を迎える本学の社会人大学院生でもある青木さん。異彩を放つその活動から、新しい歯科医師像が浮かび上がります。

新札幌いった歯科 院長

青木 一太さん

(歯学部歯学科2001年卒業、
大学院歯学研究所博士課程2012年修了予定)



■ 開業歯科医師、母校に戻る。

青木さんは、本学歯学部を卒業、歯科医師免許取得後、アメリカ・ニューヨーク州に留学、帰国後札幌市内の歯科医院に勤務し、2009年に「新札幌いった歯科」を開業しました。多彩な趣味、旺盛な向学心、ジャンルを問わず張り巡らした人脈、グローバルな視野、歯科医師としての基本を重んじる姿勢をリンクさせ、同院を舞台にユニークな活動を展開していますが、さらに2008年には本学大学院へ社会人入学を果たし、この春、晴れの修了式を迎えます。

多忙を極める中、社会人大学院生となった理由を青木さんは2つ挙げます。「組織にアカデミズムが必要だと感じたことと、臨床と研究を両立させ当院の大きな力になっている非常勤歯科医師たちと同じ環境に身を置き、どういふ世界が見えるのか知りたかったことです」。研究活動には、博士号取得による自身のステップアップに加え、臨床に偏らず研究の視点も取り入れたバランスよい医院運営への期待が込められていました。

「治して当たり前」と同様、「開いていて当たり前」と思っています。元々、週末や祝日に医療機関が閉まっていることに違和感がありました。究極の理想・24時間診療は困難でも無休なら可能じゃないか、だったらできるところから始めよう」と。

まだ珍しい取り組みですが「奇をてらうつもりはない」と青木さん。開業前から医療の基本である患者さんとの対話、ニーズの把握を重視してきた結果の「開いている安心」。青木さんの考える医療のホスピタリティの表現の一つです。



ライトのハンドルなど手で触れる部分全てを覆うバリアテープ、器具を置くトレイも使い捨てする徹底した感染対策はADA(アメリカ歯科医師会)に基づきます。「いつかメイド・イン・ジャパンの医療を海外に発信できたら」という夢も、青木さんが語るリアルな響き。

同院が掲げる診療内容は歯科・小児歯科・歯科口腔外科・矯正歯科・審美歯科・スポーツ歯科・インプラントで、専門性をもった歯科医師も在籍し、患者さんのライフスタイルに合わせ、あらゆるニーズに応えています。今後も青木さんが新たなニーズを捉えれば、できることを探して実行に移すこと必至です。

■ 新しい歯科医院のモデルへ。

青木さんは歯科医院の新しいビジネスモデルを築きつつあります。専門性をもつ複数の歯科医師や大学病院2院との提携など充実の診療体制、新たな分野への挑戦、経営に関する専門家を揃えた取締役会による経営体制は、「単なる集団ではなく目的意識をもった組織」継続可能な事業を具現化するためのものです。働く環境づくり、勤務医のモチベーションを上げる仕組みづくりも着々と進めています。副院長・白石典史さん(本学歯学部2005年卒業)も「歯科でも今後、新しい勤務医としての働き方が増えると思います」と将来像を共有します。

■ めざすは職域のストレッチ。

青木さんは歯科医院のあり方に明確なビジョンをもっています。「歯科に留まらず様々な可能性があります。食育、スポーツ、審美的領域のホワイトニングはもちろん、ほうれい線を消すための顔の筋肉の運動までも守備範囲になるんです」。

青木さん自身、新札幌いった歯科、どちらもいまは「日に新た」。1年前、いえ1カ月前のデータも参考にはならないめざましい進化の途上です。これからどんな話題を母校に届けてくれるのか、目が離せない卒業生の一人です。



大学院では生体機能・病態学系(高齢者・有病者歯科学)、安彦善裕教授のもとで研究を行いました。ピーク時は週に3日も研究室へ。「他の歯科医師、スタッフの支えのおかげです」と青木さん。

■ 「当たり前」の年中無休。

新札幌いった歯科はメディアにも度々取り上げられます。特に注目されるのが「年中無休診療」。昼休みもありません。先の年末年始も、市内全域、近隣市町から多くの患者さんが訪れました。



青木さんがプライベートで築いたアスリートとの広範なネットワークが発展し、同院はコンサドーレ札幌のサポートデンティストを務めるなどアスリートのけが防止、パフォーマンス向上をサポートしています。2012年2月「TOYOTA BIG AIR」にもメディカルスタッフとして参加。写真左の平川直さん、右の西尾匡弘さんも本学歯学部卒業生です。



「チームいった歯科」は常勤4名・非常勤14名の歯科医師(内12名が本学歯学部卒業生)、衛生士と消毒・滅菌専門員等スタッフ10名に事務長の大所帯。前列右が青木さん、左が副院長・白石さん。ユニフォームの色はその日の気分です。ゆったり快適なおフィスでは勉強会も頻繁に行われます。

授 業 レ ポ ー ト

歯学部 歯学科 [6年制]

保存修復学
3年次 必修

今回のレポーターは

左から、審美歯科でキレイづくりをめざす菅原いつみさん(立命館慶祥高校出身・編入)、最近矯正歯科に興味が出てきた若林梨絵さん(立命館慶祥高校出身)、歯科技工士資格保持者でインプラント技術マスターが目標の佐藤佑哉さん(釧路江南高校出身・編入)の3名です。



3年次、楽しみにしていた臨床系実習開始！ 抜群のリアリティで虫歯治療を学びます。

最初の臨床系実習。

歯学部では3年次に治療技術を学ぶ臨床系基礎実習が始まり、むし歯を削り詰め物をする「保存修復学実習」と、クラウンやブリッジを作る「歯冠補綴学・橋義歯補綴学実習」がそれぞれ週1回、各240分以上あります。

きょうは午前中から夕方5時まで「保存修復学実習」。午後は、人工歯を削って、う蝕(むし歯の部分)を除去、その過程で露出した歯髄を保護して、最後に詰めるという一連の流れの実習です。保存修復学実習は残すところあと1回、試験だけ。つまりきょうの実習は3年次では最高の難易度といえるわけです。

上達がわかる喜び。

治療するのは左下5番・第二小臼歯、う蝕付き人工歯です。人工とはいえ、う蝕部分は本物同様、検知液に赤く染まります。ここをエアタービンで残さず、かつ最小限の範囲にとどめて削ります。絶妙な力加減は体で覚えるしかなく、最初は削った表面がひどいでこぼこ(苦笑)。でもいまは随分と上達しました。



誤飲を防ぐために、治療する歯だけ出して口の周囲をシートカバー(ラバーダム装着)。ネイルアートで見せる細かな技と集中力が自慢の菅原さんにも「歯は凹凸があるから難しい」と言わせる治療前のハードルです。

最も大切なことを…。

さて、一連の治療の流れを実習する場合、意外に高いハードルが器具の準備です。エアタービンのハンドピース、詰め物のセメントを練るスバチュラー、削った穴の底と穴全体で異なるセメン



最初にVTRのデモンストレーションを担当した先生自らが実習内容を説明します。各学生のモニタに映る高画質映像でミリ単位の指示もはっきり。もちろん、授業以外でも自分の習熟度に合わせて必要なデジタル教材を使って予習・復習が可能。つまり「できない」なんて言い訳は通用しない環境なのです。

トの粉と液など、各過程で使用するものの選択、扱いに神経を使います。

きょうも誰もが最高の集中力をキープして臨みましたが、1本の歯の治療に午後いっぱいかかりました。セメントを適度な硬さに練るのに苦労していた私たちの耳に届いた先生のひと言は「マネキンは口を開けたまま、いつまでも待ってくれるけどね」。ドキリ!まだまだ自分のことだけで精一杯でした。

甘えは封印します。

この実習には年に7、8人、本学卒業生が非常勤講師としてやって来ます。きょうは青森県おいらせ町から開業医、本学大学院修了の歯学博士で日本歯科保存学会専門医の今北将人先生が足を運んでくださいました。今北先生の時代には、いま私たちが実習台のモニタで自分のわからない部分を何度も繰り返し再生できるVTRも全員で1度見るだけ、その場で頭に叩き込まなけ



8~10名に一人の教員が実習中ずっとそばにいるから、疑問はその場で解消!すぐ次に進めます。「ダメ出しも厳しいですけど…」

ればならず実習室はピリピリした緊張感に包まれていたそうです。

振り返ると、何でも揃った実習台、質感もリアルな人工歯、頻繁にバージョンアップされる本学教員製作オリジナルデジタル教材、全国でも群を抜く恵まれた環境に甘えていた私たちがいました。「もっと緊張感をもってください」。先輩のエールを胸に、この環境に恥じない歯学部生になれるよう精進します!

担当教員より

基礎科目の復習が大事です!

● 齋藤 隆史 教授

本実習は、う蝕を除去して歯科材料で修復するという歯科医師の基本技術を身につける基礎的な実習です。臨床系基礎実習としては最も早期(第3学年前・後期)に行われるため、学生さんたちにとっては「歯科医師に一步近づいてきた」という実感が湧く実習であると思います。そのため、学生さんたちのモチベーションを高める実習内容、教材作りを目指しています。学生さんたちへのアドバイスとしては、本実習はこれまでに学んだ「歯の解剖学」「歯型彫刻」「歯科理工学」をはじめとする様々な基礎科目を基盤として成り立つ実習ですので、まずそれらの知識・技術が身に付いていなければなりません。このことを念頭に置き、基礎科目の復習を十分に行ってから本実習に臨んでいただきたいです。

学友会

学友会の活動について

「学友会」は学生の課外活動組織で、学友会長（学長）の下、「体育局」「文化局」「大学祭実行委員会」から構成され、学生により運営されています。体育局、文化局では、各局所属のクラブ・同好会から選出された学生が局長・次長・局員となり、クラブ間の調整や取りまとめ、またイベントの企画や実施を行い、大学祭実行委員会では委員長・副委員長の他、会計や広報など機能別の役割担当が置かれ、学生による大学祭の企画・運営が行われています。

学友会組織をまとめ、運営方針の策定や調整をはかるために「学友会運営委員会」が置かれています。この委員会は、体育局長・次長、文化局長・次

長、大学祭実行委員長・副委員長、各学部学生部の教員から構成され、学生が議長となり、主にクラブ・同好会の新設・改廃・昇降格や学友会予算の運用・執行について協議しています。また、各クラブの戦績報告や、大学祭の企画の精査および実施報告、学友会施設について等、学生の課外活動に係る事項について総合的に議題に取り上げられています。

学友会はSCPと共に学生の代表とも言える組織です。学友会所属団体のみなさんで、学生生活をより良く過ごすための意見や要望がありましたら、各局長や委員長までお寄せください。

■学友会年間行事予定

4月	新入生オリエンテーションにて クラブ紹介(体育局・文化局)
5月	
6月	九十九祭(大学祭実行委員会) 社行会(体育局)
7月	北海道地区大学体育大会(体育局所属クラブ参加)
8月	全日本歯科学生総合体育大会 (体育局所属クラブ参加)
9月	
10月	
11月	文化週間(文化局) 球技大会(大学祭実行委員会)
12月	
1月	
2月	
3月	

体育局



体育局長
高木 賢太郎
(薬学部3年)

一年を振り返って

自分が体育局長になり、本格的に代替わりしたのは2010年の11月でした。代替わりして初めての定例会で人前で連絡事項を伝える時に緊張で、ひざが震えて、手のひらに汗をかいていたのを今でも覚えています。しかも、初の定例会で体育館の割り振りで大きく揉めて、とても大変な思いをしました。「体育局長は定例会のお知らせをしとけばいい、簡単な仕事」だと思っていましたが、大きな間違いでした。

これ以降も色々大変な事がありました。例えば、春にある部活の予算を決める各部活との面談や、300人以上いる新入生の前で部活紹介の進行役をしたりなどがありました。特に1年間を通して苦労したのが、体育局に関係のない苦情や要望も自分にくる事です。「何で自分が・・・。」と思う事がたくさんありました。

その他にも自分勝手な事を言う団体の話を聞いたり、色々大変な事がありましたが、見方を変えれば将来、社会人になって必ずある困難を一足先に経験できたと思えば、この1年間は無駄ではなかったと思います。学生支援課の方々にも助けてもらいながら、なんとか局長の任期を終えることができました。自分で望んでた立場でも無く、苦労の多い大変な仕事でしたが、終わってみるとやって良かったと思えました。

色々相談に乗ってくださった学生支援課の方々やここまで支えてくれた人達に感謝します。今までありがとうございました。

文化局



文化局長
菅原 章弘
(薬学部3年)

文化局の1年を振り返って

自分達の代に主役が変わり2人の文化局員と共に、わからないことだらけでスタートしました。医療系の大学で、実習、私用があるなかで多くの助けをくれた2人には感謝しています。

月に1回の定例会では、大人数を相手に1人で話さなければいけなく、最初の頃は緊張すぎて顔は赤く、脇汗もので、定例会の日はグレー以外の濃い色の服を着るようにしていたほどです。

周りから見れば、「文化局の仕事といっても定例会だけだろう」と思われていると思いますが、定例会は実は一番楽なものです。それよりも、資料の整理、学園祭や文化週間の日程決め、それを巡っての学生支援課とのやり取りなど、今回このような立場になったことで、まとめる側の苦労を感じることができました。

文化局長での貴重な体験は、卒業して社会に出たときに役にたつかもしいないと思います。そしてなにより楽しかったです。

最後になりますが、今年一年の文化局を支えてくれた文化局員の3年生、各サークル、部活の方々、学生支援課の方々みなさん、ありがとうございました。

大学祭 実行委員会

九十九祭を振り返って



大学祭実行委員長
中村 友昭
(歯学部3年)

昨年、私は大学祭実行委員会の委員長に就任した際、個人的に一つの目標を立てました。それは、「九十九祭を北海道医療大学に関係する全ての人たちに興味を持ってもらえるイベントにする。」というものでした。

近年、本学の大学祭である九十九祭は、どこか部活に所属している学生達のためのイベントとして捉えられており、部活に所属していない学生達や教職員の方々の中には九十九祭期間中を連休

と考えている人も多々見受けられます。そこで、私はこの状況を打破したく、様々な新企画を試みることにしました。そして、その目玉となったのが前夜祭と花火大会です。年々人数が少なくなってきた実行委員だけで、この新しき企画を運営できるか不安でしたが、前夜祭当日になると平日の放課後に開催したということもあり、これまで九十九祭に興味を持っていなかった学生、教職員の方々にも多く足を運んでいただきました。しか

し、同時に多くの反省も得られました。来年度はこの反省を活かして、より多くの方が親しみを持って九十九祭にしていきたいと思います。

最後になりましたが、今年度九十九祭開催にあたりご協力いただいた学生、教職員、企業の方々にご協力ありがとうございました。

北海道医療大学アメリカンフットボール部 創部30周年記念式典

北海道医療大学アメリカンフットボール部
30周年記念式典

実行委員長 小林 ちさと

昨年、北海道医療大学アメリカンフットボール部は創部30周年を迎え、京王プラザホテルにて記念式典を開催致しました。式典には初代部長の坂口邦彦先生を始め部長・国永史朗先生、小島雅彦前監督、OBでもある永易裕樹先生、齊藤正人先生、VTRによる越智守生先生の特別参加を得、総勢93名(うち現役部員19名)が集いました。式典はOB会長・関根清文の挨拶に始まり、歴史を振り返るスライド

ショー放映、現役部員やOBである鈴木大輔新監督による決意表明などが行われ、盛会のなか終了致しました。

本会では東日本大震災で被災した本学学生のための義援金を募り、82,644円を学校法人東日本学園へ寄付することが出来ました。

創部30年という区切りを無事迎えられる事が出来ましたのも、偏に関係各位の皆様方の



お陰です。あらためてお礼申し上げます。今後は新たにOB会事務局を立ち上げるなど、部を中心とした強い『絆』を紡ぎ、現役部員のサポート強化を行い、一つでも多く勝利をおさめ、皆様にご報告差し上げられますよう、関係者一同一丸となって精進してまいります。今後もご協力ご理解の程宜しくお願い申し上げます。

1/6 被災地医療救護活動にあたった 本学歯学部教員等に対する感謝状の贈呈

日本歯科医師会等からの派遣要請を受けて、本学歯学部教員等が東日本大震災における被災地支援活動にあたってきたことから、昨年、日本歯科医師会から感謝状が贈られましたが、それに引き続いて、この度、宮城県歯科医師会からも、被災地の避難所生活者に対する巡回診療及び口腔ケアに従事した歯科医師17名に対して感謝状が贈られました。

これを受けて、1月6日(金)、有末歯学部長より、慰労の言葉とともに各歯学部教員等に対して感謝状が手渡されました。



2/6-7 本学学生による 当別町の除雪ボランティア

2月6日・7日の2日間にわたって、本学の学生有志十数名が大学所在地である当別町の除雪ボランティアを行いました。

報道にもあるように、隣町の新篠津では記録的な大雪となっており、隣接地である当別町においても例年以上の膨大な積雪量となっています。

本学の学生有志十数名は2日間にわたり町内の高齢者の住宅等を中心に除雪作業を行い、住民の方々より多くの感謝と労いの言葉をいただきました。



EDITOR'S NOTE

今年も巣立ちの季節がやってまいりました。国家試験や資格試験にむかって全力をそそいできた学生たちには、小さな声で「お疲れ様」をかけてあげたいと思います。最終学年は、早く卒業したい、早く試験から解放されたいと思って過ごした人も多かったのではないのでしょうか。これで試験から解放されたと言っても、特に医療に携わるものは、最新の知識と技術を習得するために、一生勉強を続けていく必要があります。しかし、試験に追われることなく自らの意思で勉強してみると、改めて気がつくことがあります。「あれ、いつからこんなに勉強って楽しいと思えるようになったのだろう。」ということです。本当の意味での学ぶことの楽しさは、むしろこれからの方が実感する機会が多いように思います。卒業生の皆さん、これから社会にでて益々、勉強を楽しんでください。

(Y.A記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.150

STAFF ● 増田 園子 浜上 尚也 安彦 善裕 中山 英二
鎌口 有秀 志渡 晃一 竹生 礼子 富家 直明
梶原 健一 杉原 佳奈 長原 利明 宮崎 隆志
宮川 雄一 戸藤 成人

発行日 ● 2012年3月14日

編集・発行 ● 北海道医療大学広報・教育事業部 入試広報課
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
☎(0133)22-2113
http://www.hoku-iryu-u.ac.jp

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしております。
E-mail:nyushi@hoku-iryu-u.ac.jp



■北海道医療大学の教育理念
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。